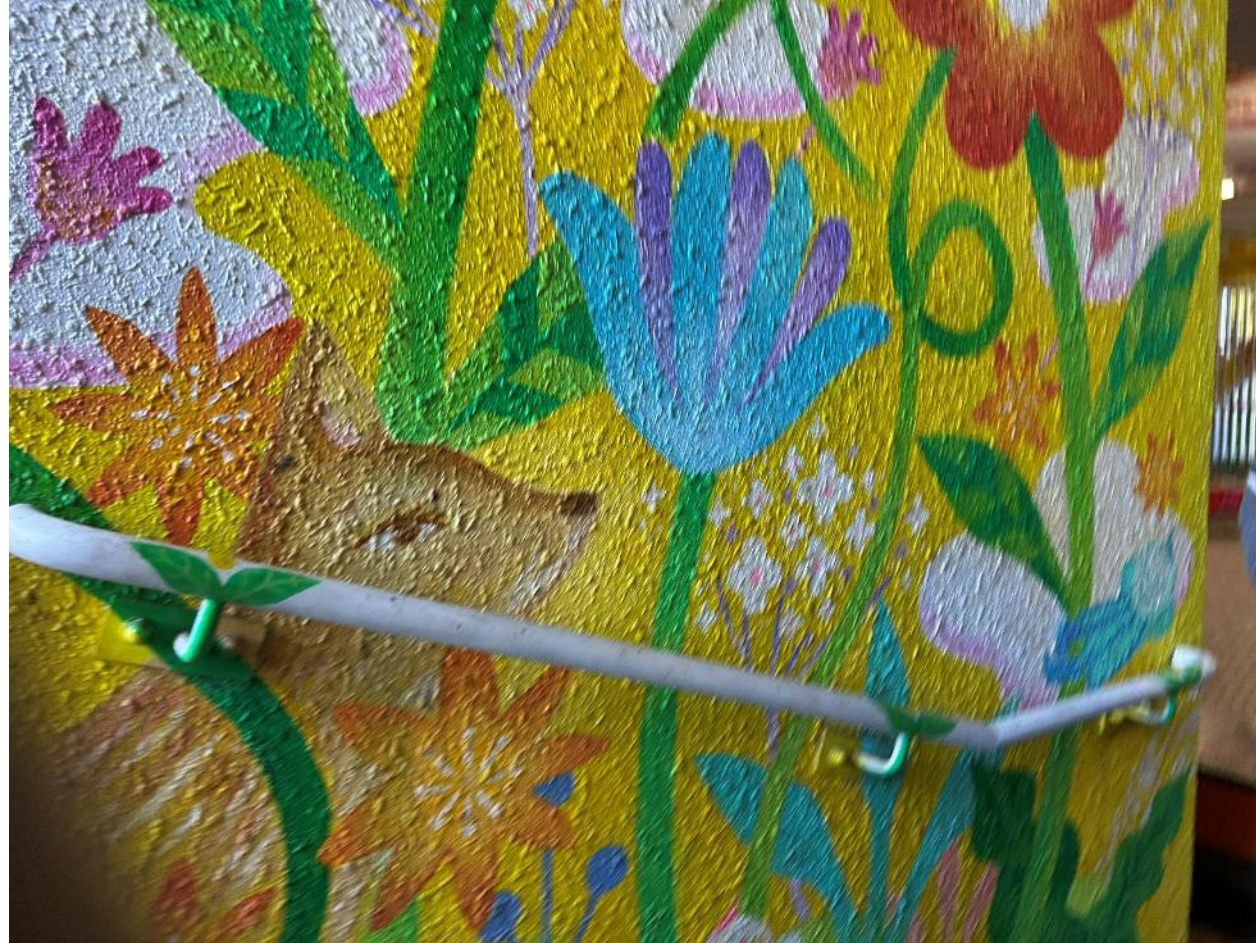


# 2025年度多文化共生パートナー育成講座 振り返り（NGO側コアグループ）



名古屋NGOセンター 中島隆宏

# 経緯

- 2019年度：中部NGO-JICA中部地域協議会でNGO側の多文化共生の取り組み事例として名古屋YWCA、外国人ヘルプライン東海の取り組みを紹介し学び合った。
- 2020年度：JICA中部、NGO側それぞれ中部地域で調査活動を実施。それをもとに地域協議会で次年度の多文化共生事業について協議。
- 2021年度：名古屋NGOセンター加盟団体のうち、多文化共生分野の団体（名古屋YWCA、外国人ヘルプライン東海、多文化共生リソースセンター）が取り組めていない、共生社会に向けての市民の意識醸成を目的として、シンポジウム「海外ルーツの市民とともにある日本社会」をJICA中部と中部地域NGOが共催で実施。
- 2022年度では、市民と海外ルーツをつなぐ橋渡し役の育成を目的にユースを対象として「多文化共生パートナー育成講座（三回連続講座）」を共催。
- 以降、同講座を毎年、共催。2025年度は4回目。

# NGO側コアグループの変遷

前年度の参加者がコアグループ（運営チーム）へ → 橋渡し役育成

課題：新規メンバー増強、ユースのリーダーシップ強化

2022年度 21名    2023年度 22名    2024年度 18名    2025年度 12名

「with Diversity - 知る、つながる、ともに暮らす」（コアグループ会合12回開催）

連続講座3回修了生 22名

- 海外ルーツ 3
- 多文化共生 4
- NGO,NPO 8
- ユース 7

（2021年度参加者:5）

「マイクロアグレッションって何だろう？」連続講座-2回目は現場訪問（コアグループ会合、全10回開催）3回修了生は12名

- 海外ルーツ 2
- 多文化共生 2
- NGO,NPO 7
- ユース 11

（2022年度参加者:6）

「ビロッキングって何だろう？」連続講座-2回目は現場訪問（全10回開催）3回修了生は20名

- 海外ルーツ 4
- 多文化共生 3
- NGO,NPO 4
- ユース 11

（2023年度参加者:6）

「ビロッキングを日常に？」連続講座-2回目は現場訪問（全12回開催）3回修了生は24名

- 海外ルーツ 1
- 多文化共生 1
- NGO,NPO 3
- ユース 8

（2024年度参加者:5）

文化的背景の異なる人々をつなぐ「橋渡し役」を育成することで、海外ルーツの市民と日本の市民が互いの違いを尊重し合い、すべての人が安心して参加できる、開かれた共創の場（ビロッキング）の形成に貢献する。

# 第1回 ( 交流会+ワークショップ+講演 )

【11月22日 (土)】 10時~16時 @JICA中部

## 【交流会】

- ・ 世界を知る！南米の言語や文化を楽しく学びながら、参加者同士の交流を深めよう！

## 【ワークショップ】

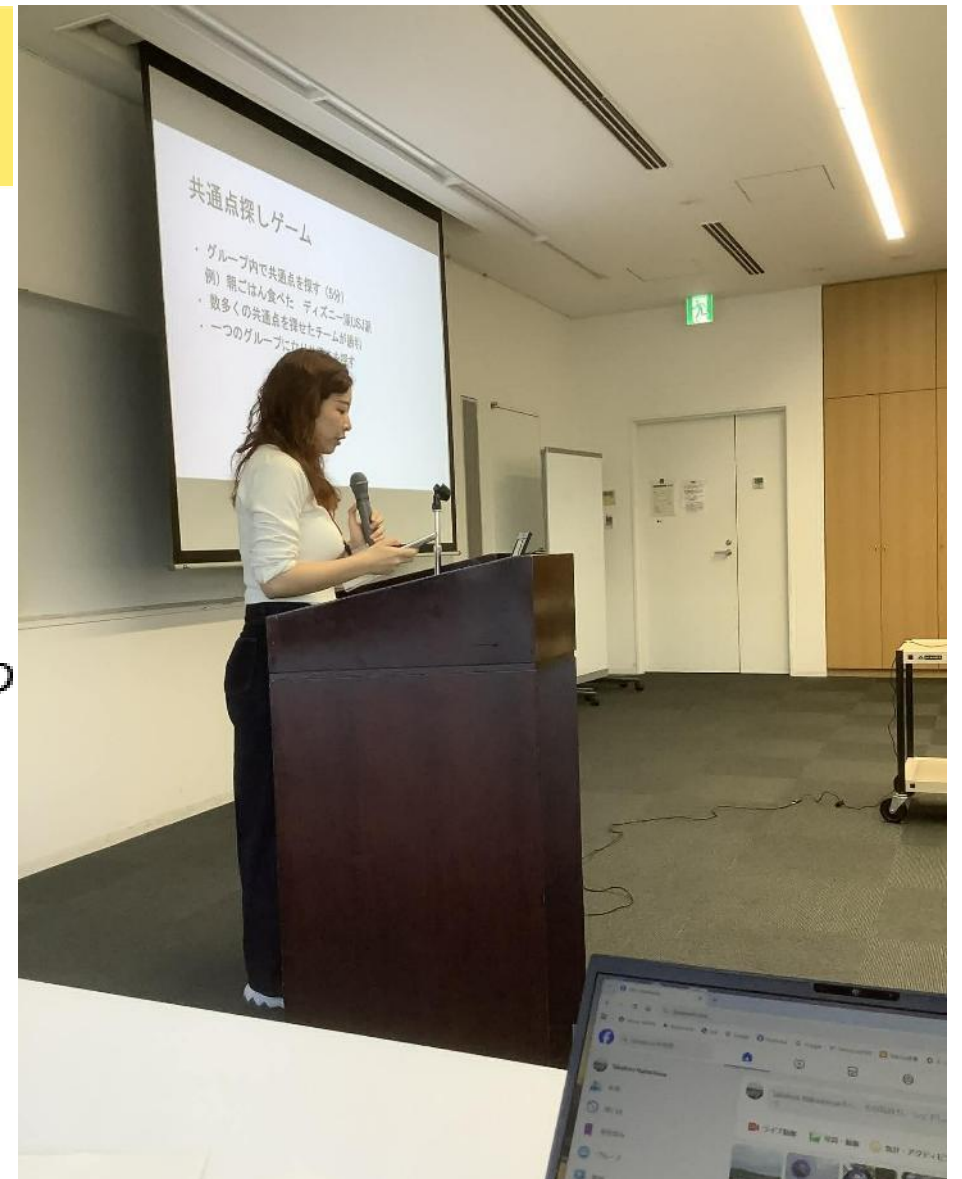
- ・ アンコンシャスバイアスに気付き、自分の考え方を見つめ直し、多様性を受け入れるためのヒントを学ぼう！

## 【南米ルーツから学ぶ】

- ・ 共生社会の実現に向け必要な知識(制度的、構造的、格差) について知ろう。ブラジルとボリビアのルーツの方から聞きます。

## 【第2回講座 (保見団地訪問) オリエンテーション】

参加者26名(高校11, 大学生14, 社会人1)



# 昨年度からの変更点

- 社会構造・制度の問題を考えるシンポジウム
  - プレゼンは専門家に頼らず、コアメンバーユースが準備し発表した。
    - 日系人移民の歴史、愛知県の外国籍住民、学校教育/日本語能力の課題、在留資格・就労・就活、雇用・社会保険・年金問題
  - 各プレゼンに対して、南米ルーツの講師2名にコメントをもらう形で進化した。
- 保見団地オリエンテーション（第二回講座）を第一回講座の中で行った。（昨年度は別途、第二回講座の前に実施）



# 第一回講座振り返り

(グループファシリアンケート 回答6/7)

GFアンケート	良かった点 (最初に交流会があった。積極的参加)	改善点(アクティビティ数、時間管理、ファシリテーションスキル)
参加者の様子/	高校生も大学生も垣根なく積極的に主体的に話し合いができた。	自由時間に高校生同士、大学生同士が固まっていた。→交流を促す質問を各自のファシリが1、2個用意していくと良いのではないか。
ファシリテーション	高校生がとても興味を持って沢山質問くれていた	交流会の他己紹介のインストラクションが十分できなかった。
	人数が少なかったということもあり、発言者が偏ることなく全員積極的に発言をしていました。	交流会のイメージトレーニング不足で交流会の時間が押してしまった。
	グループ発表の際全員で分担していた。	もっと4人(参加者)と話して、行き詰ればファシリが入るようにしたかった。
	満遍なく、同じグループの様々な人に全員が話しかけていた	奇数人の場合のペアの作り方についても事前の打ち合わせまたは当日のアナウンスがあればよかった。
プログラム	他己紹介と共通点探しで、だいぶ話しやすい雰囲気できました。インタビュー形式の他己紹介があったので、その次のワークショップでは、参加者自身の経験に基づいた意見が出やすかった	カルロス君の例をみて 言った側は話題をつくるために言ったという意見が多くあった。こちらからはヒントを与えずにした。普段あまりカルロス君のような場面に遭遇していないのかなあと感じた。また、周囲の子ども達についての言及がどこからも出ていなかった。→気づくためのファシリ必要？
		シンポジウムでは、数分でも良いので、グループ内での振り返りの時間を区切り毎に作ったほうが、内容も気分も整理できて良かったか

# 第一回講座まとめ (9,12回コアグループ会合より)

## <良かった点>

- 交流会で他己紹介や共通点探しがあり参加が促進された。
- シンポジウムのユースメンバーによるプレゼンは良く出来ていた。
- 実際に南米ルーツの人の話が聞けて良かった。(参加者アンケート)

## <改善点>

- 参加者の中で「難しかった」という意見 →
  - 話を聞いた後に共有するなど確認の時間をとり、参加者の理解度を知る。
  - 参加者アンケートの中に参加者の質問項目を入れる。
  - 高校生にあわせてシンプルにするのではなく、一回目で全部わかるのではなく、3回全部でて分かるようになっていくことを伝える。

## 保見団地オリエンテーション（参加者アンケートから）

ジュントスの動画が、保見団地の景色が映っていてとても興味深かったです  
第二回の活動に繋がるいい時間だった





## 第2回 ( 現場訪問 + 交流 )

【12月6日 (土)】 9時半～16時 @豊田市

### 【現場訪問】

- ・ 海外ルーツの人たちの生活の場、子どもたちの学習支援活動  
訪れ、多文化共生やビロッキングについて考えよう！

★豊田市保見団地

★一般社団法人JUNTOS

### 【海外ルーツのユースとの交流会】

- ・ 多様な海外ルーツのユースたちと出会い、交流しよう！

参加者26名(高校生11, 大学生11, 社会人4)

# 昨年度からの変更点

- 午後の時間は、ケアセンターほみ（訪問介護施設）の話がなくなり、海外ルーツのユースとのトークセッションの時間とした。
- 日本人参加者が海外ルーツのユースから一方的に話を聴くのではなく、対等に関係で交流が出来たら良いという目的でトークセッションを開催した。（7名の海外ルーツ講師）



「みんなちがって、  
みんないいって  
ほんとだった！」  
のリアルなお話

2025多文化共生パートナー育成講座  
トークセッション  
交流  
参加者募集  
参加費無料！

開催日時・場所

12/6 土

13:30~16:00・事前予約制  
豊田市保見ヶ丘六区集会所（107棟1階）

海外にルーツを持つ講師の方々とキャリアや居場所づくりについてお話しし、将来について語り合うトークセッションです。一緒に見えない壁との立ち向かい方や居場所について考えてみませんか？



菊地 健二

16歳でアルゼンチンから来日し、  
現在愛知県教育委員会で  
語学相談員をしています。



塚本エベリネ

父は日系2世、  
母はイタリア系ブラジル人で、  
現在岐阜県国際交流センターで  
勤務しています。



村山グスタボ秀夫

ブラジル生まれ保見育ちで、  
「仕事を通じて」定住外国人の  
生活をより豊かにする  
プロジェクトや行政案件に  
携わっています。

まだまだ様々な講師が来る予定！

当日参加もOK



対象者 高校生～社会人

定員 15名

お問合せ：一般社団法人JUNTOS

E-mail: juntos.homidanchi@gmail.com

共催：名古屋NGOセンター、JICA中部、東海市民社会ネットワーク 協力：JUNTOS

お申込みはこちらから >>>>

☎ 080-2510-3987 (YOSHI)





# 第二回講座振り返り (グループファシリアンケート回答 7/8)

GFアンケート	良かった点 (多文化体験、ビロンギングを実感する交流)	改善点 (地元の海外ルーツの参加が少なかった)
参加者の様子/	グループのみんなそれぞれが意見をはっきり言うことができ、共生していく形を真剣に考えていた	もう少しメリハリをつけて進行できれば、もっとスムーズに進められた
ファシリテーション	<p>ユースとの交流会を今回講師の方との座談会にしたことで、より深い話を講師の方とできて参加者の満足度高そうだったし、講師の方も「色々話せてよかった」と充実した様子だった。時間も、午前は押してしまったものの、最後はオーバーせずに終わった。</p> <p>普段から気軽に会話ができる関係になってきたように思う。</p> <p>年齢の差をあまり気にせず発言できている</p> <p>参加者が海外ルーツのユースの方々の経験に関心を持っていた。積極的にメモをとっていた。</p>	<p>講師の方の待機場所、時間配分について連携が不十分だった。また、皆が静かな時はマイクなしでも少し声を張れば問題ないが、ざわついている時に呼びかける際のために、マイクとスピーカーはあった方が、かき消されず良いと思った。</p>
プログラム	<p>お昼をフォックスタウンでショッピングして、プチ多文化観光・体験を楽しめた。(食でつながった) 自由な時間が良かった。</p>	<p>グループ内での共有の時間が少し短かったように感じました。また、最後のアクティビティの今の気持ちを一言で表すキーワードに残すという作業が不明瞭で時間のなかで発表するのが厳しかったです。</p>
	<p>トークセッション：トークセッション：趣旨に賛同していただき、コミュニケーション力の高い講師が来て下さった。各自がライフロードを開示し、ビロンギングを実感する交流ができたように見えた</p>	<p>次世代ユースのチラシの説明が短すぎたせいもあって話を聞きにくい時の判断材料にはつながらないこと、短くまとめすぎたことでRWRのメンバーの大事な一言が抜けていると話がありました。</p>

# ビロンギングについて話し合ったこと。考えたこと。

(海外ルーツのユース交流会で)

## 海外ルーツのビロンギング

父が日本、母がフィリピンとマカオと中国のミック  
スルーツだが、ハーフであると言っても外見から  
「ハーフに見えない」と頻繁に言われることでアイ  
デンティティを否定されたようでストレスが溜まっ  
たと言っており、「マイクロアグレッション」につ  
いて今まであまり当事者の話を聞く機会がなかつ  
たのが、ぐっとリアルに感じられた。参加者も心に響  
いた様子だった。



## ビロンギング（共通）

自分の居場所を見つけるために、自分から行動する  
ことも大事である。他の人の居場所作りも大事だが、  
まずはそれぞれが自分のことを好きになれる居場所  
を持つことが必要である

海外ルーツの講師の方のライフロードを聴いて自身  
内省したことで、ビロンギングに気づけてその大切  
さにおもいがいたった

国籍や文化を完全に分けて捉えるのではなく、ひと  
りの人として対等に共存していける社会こそ、本来  
あるべき姿なのではないかという結論になりました。  
また、ビロンギングについても、単に「どこに属し  
ているか」という形式的なものではなく、本人が安  
心して自分らしくいられる環境や関係性の中で育ま  
れるものだというふうにグループで話し合いました。

# 第二回講座まとめ（第11回コアグループ会合より）

## <良かった点>

- 海外ルーツのユースとの交流に今までよりも長い時間がとれた。
- ビロッキングのテーマに沿った話→講師と共に参加者もビロッキングの経験があったということに気づくことができた。
- 趣旨に賛同してくださり、コミュニケーション力の高い講師が来て下さった。話を聴くをメインにしたらよいのでは。
- ライフロードを開示し、ビロッキングを実感する交流ができた

## <改善点>

- もっと海外ルーツのユースに交流会にきてもらおうと思っていたが、TIAの同様のイベントとバッティングし地域から海外ルーツの参加者を集められなかった。
- 保見団地だからこその話や体験ができた方が良い。
- 斎藤さんによる保見団地の歴史については、事前に資料をもらえればわかるので、体験にもう少し重点を置いても良いのではないか。
- もっと保見団地をじっくりと時間をかけてフィールドワークする。
- 子どもと遊ぶ時間—JUNTOSからの解説もあるとよい。

# 第3回(まとめ+アクションづくり)

【12月20日(土)】10時~16時 @JICA中部

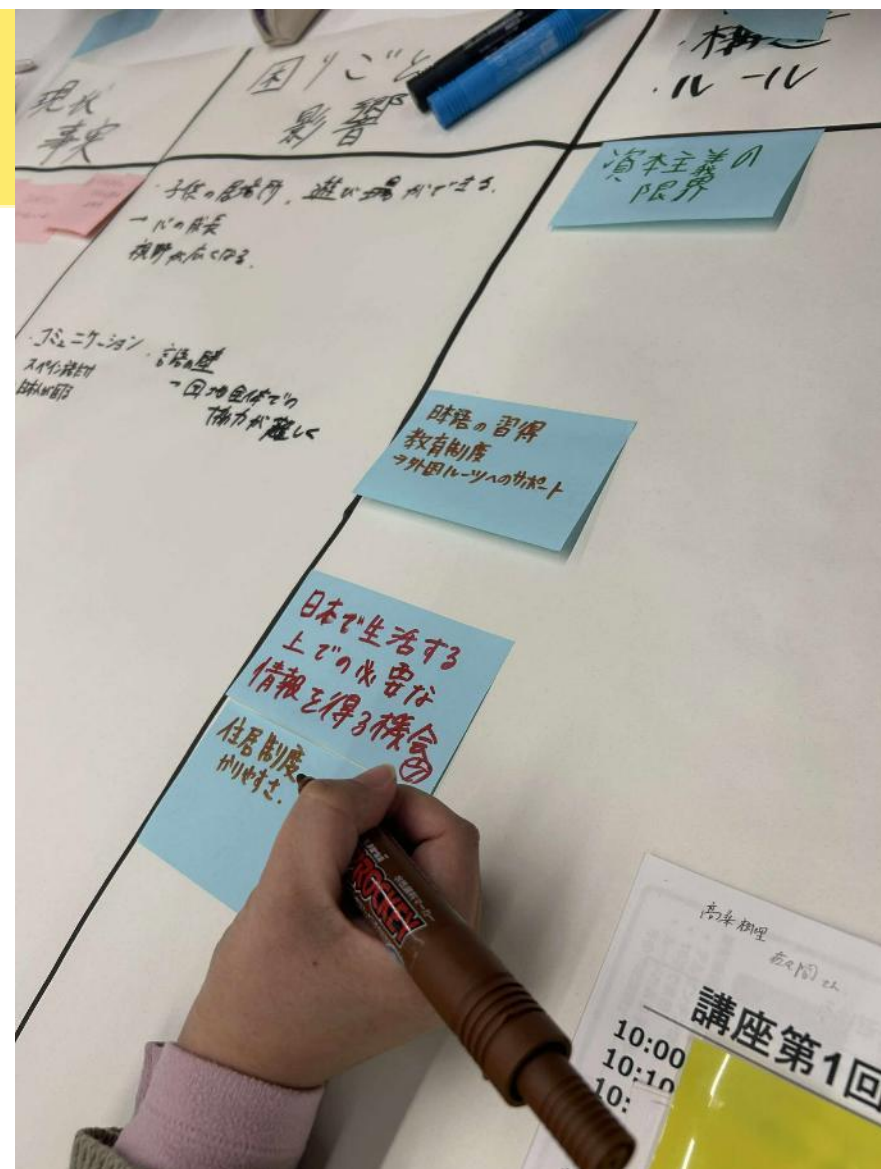
## 【第2回講座振り返り/ビロンギングの理解】

- ・ 現場訪問の経験を振り返り、気づきを共有します。
- ・ みんなが居場所を感じ活躍できる社会の重要性を考えます。  
日本社会の状況からビロンギングについて理解し、多文化共生のヒントを得よう！

## 【未来へのアクションづくり】

- ・ ビロンギングを日常にするために、わたしが出来ることは？  
未来に向けて取り組むステップを明確にするため、みんな  
で意見を交わします。

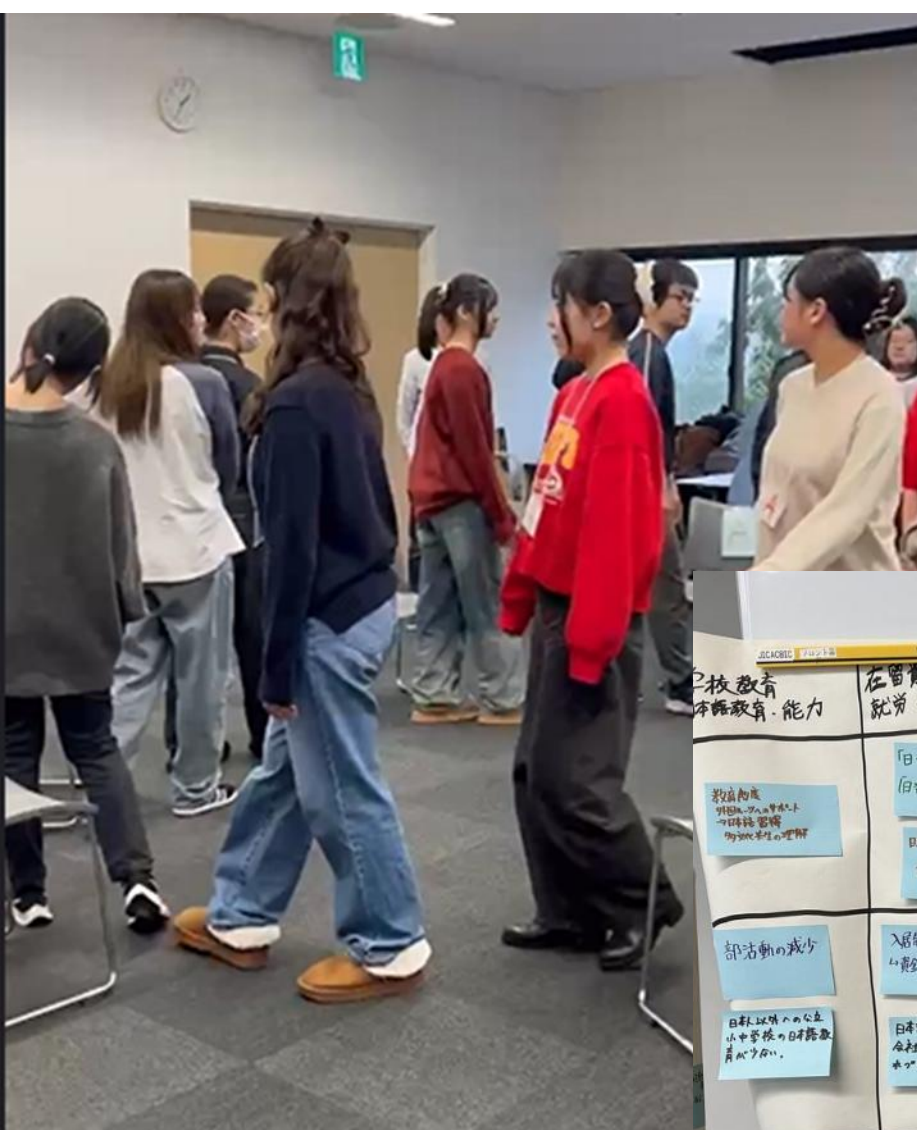
修了生24名(高校生10, 大学生11, 社会人3)



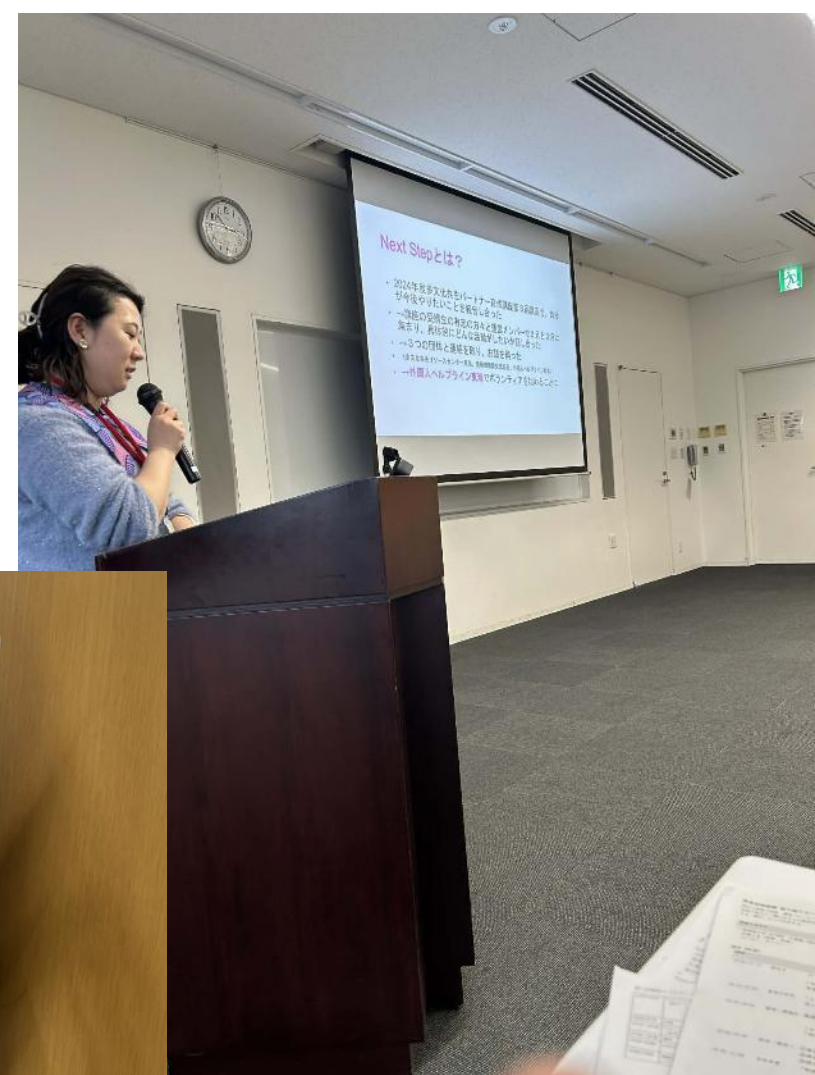
# 昨年度からの変更点

- アクションプランづくりで、4つの団体について具体的に説明をした。そのうち、3つについては、そこに関わっている人から経験談を交えて説明がされた。
  - 昨年度までは、アクションの場のリストを手渡していたが、具体的な説明はしていなかった。





# 保見団地振り返りービ ロギングの阻害要 因・促進要因分析



学校教育 本語教育・能力	在留資格・就活 就労・雇用	社会保険 年金	国際国制度 システム	ビロギングを前に進めるもの
教員向け 外国人への対応 多文化理解	「日本を守る」 「日本を守るか」 日本での生活の不安 ビロギング	雇用保険(短期労働者) 健康保険 年金制度の提供	マクロ 国際国制度システム	ことと前庭片 外国人との交流 外国人の定住を 促す 消費を増やす 雇用と収入を 増やす 経済 文科系 国際理解 多文化理解 外国人 日本人と同じ に働く機会 外国人労働者への 保障と雇用促進の 監視の仕組み
部活動の減少 日本語への公立 小中学校の日本語 教育が少い。	入居制 の費用が安い 日本語を話さない 会社員や学生 が多い。	日本の生活する上 で大切なシステム の提供の場が 少ない。	メゾ 地域 コミュニ ティ 組織 グル ープ	外国人でも見 た 分り表示 日本語講座 (市 区 単位)
日本人の生活 に合わせた サービス	入居制の取 り方 多文化 理解 雇用 関係	年金が 収入が少い...	ミクロ(生活暮らし) 個人家族	外国人が下 にいる人 外国人が下 にいる人 外国人が下 にいる人 外国人が下 にいる人

特権に気付くー不公正な椅子取りゲーム

アクションの場紹介

# 第三回講座振り返り (グループファシリアンケート回答 7/8)

GFアンケート	良かった点 (構造的問題を考察、自分事化できた)	改善点 (コアグループの魅力の発信、十分な時間配分)
参加者の様子/	全員が最初よりも、打ち解け合い、それぞれが意見をより深く伝えてくれるようになった。	コアグループに入るとこんな楽しみもあると伝えられたよかった。
ファシリテーション	メンバー皆 (特に大学生の2人) が積極的に意見を言い合い、活発に議論できた。また、大学生が社会人達に人生相談していたりと、歳の差を活かした交流もできた。	時間的に少しだけ余裕があれば、全体としてもっと考えが深まって意見がまとまりやすい
	グループワークでは参加者が、前回までに配布した紙資料だけでなく、メモ (特に保見団地での) を参考にしていました。昨年度よりメモをとっている参加者が多かったです。	自分が前で発表している際に、自分のグループにコアグループメンバーがいなかったため、参加者の理解が遅れてしまった。
	最終的にグループメンバー全員が仲良くなれて、楽しかったという声があった	椅子取りゲームでは、音楽を流すところ (パソコン) が離れていたため、プレイヤーの様子が見えづらく、音楽を流すタイミングや止めるタイミングの見極めが難しかったため、今後はパソコンの近くで (一昨年同様) 行った方が良いのでは。
		模造紙を使用する場合、机に置かずに最初からホワイトボードに貼って作業したほうが、体が動かせて、他のグループの進捗具合もわかりやすいかと思いました。
プログラム	それぞれが保見団地での振り返りをしっかりと行っていたこと、そこから見えてくる構造的制度の問題にも考えられていたところが良かったと思います。そして自分事化して問題を捉えられているように感じました。	不公平な椅子取りゲームで、グループ内でAとBに分かれた方が後で違いについて話しやすい

# 第三回講座まとめ(第11回コアグループ)

## <良かった点>

- 「アクションプラン作り」で、今まではアクションの場リストを渡すだけだったのが、4つの活動を紹介したことで、参加者にとってアクションのイメージがしやすくなり、アクションを取るきっかけとなったので来年度以降も続けたい。
- 二回目まで構造的な抑えが弱かったのではないかと思ったので、構造をしっかりと理解できるように、保見団地の振り返り+ビロッキングを促すものと阻むものについて学ぶこととした。高校生の参加者が「社会制度の問題があるとわかった」と言っていたのは、その成果ではないか。
- 前回よりもアクションプランについて発表する時間がとれた。

## <改善点>

- アクティビティが多いが、どれ一つ欠けても講座が完成しなかったと思うので、時間を削るよりは、きつくても時間をとってアクティビティを充実させた方が良い。

# コアグループ活動のインパクト 1 (第3回グループファシリアンケート・ユース7名の回答より)

## <成長・学びの場>

- 多文化共生を実行されているメンバーの中に自分自身が在籍させていただいているという自覚を持たせてくれた。実際の講座の時にも、普段のコアグループの方々にしていただいていた嬉しかったことを実践できるように努めた。**ロールモデルがたくさんいる環境に身を置けたことで、今まで以上に自分自身の成長を感じることができた。** (Hさん、大学生)
- 今回は少人数で大変な部分もあったが 各々持ち味を発揮していて感心することが多く学びがとあった。 (Mさん、社会人)
- CANVAや司会など色々な経験ができ、色々な人とお話しでき、成長した。 (Gさん、社会人)
- コアグループ活動は準備でも実施でも常に学びの場と感じている。それは、橋渡し役として相手に伝える方法を考え実践すること。 (Nさん、社会人)

# コアグループ活動のインパクト2 (第3回グループファシリアンケート・ユース7名の回答より)

## <ファシリテーション力の向上>

- ファシリテーターについて、広報、タイムマネジメントや多文化共生のあり方についてより詳細に理解することができた。また、コアグループメンバー全体で意見を言い合って、考える場も私にとって非常に楽しかった。(Iさん、大学生)
- **ファシリテーションとしての力が身についたと感じた。初めて深い内容のプレゼンテーションを任されたり、運営の方法を多く学んだ年となった！！**(Uさん、大学生、コアグループメンバー3年目)
- Nたまと並行してできたので、両方の経験が良い刺激になった。受講生やほかのファシリテーターとの良い意見交換ができた。(Aさん、社会人)

# 2025年度コアグループ



# 運営の評価（全体を通して）

第11回,12回コアグループ会合より

- 「コアグループ活動を通じて成長できた」という意見が多かった。コアグループの運営がうまくいったのではないか。
- **運営の動きはじめを早くする** — チラシができてから締め切りが近く、広報がうまくいかない
  - コアグループメンバー募集 時期 今年度（3月）中に出す。
  - **第一回CG会合の開催時期早める** 4月中[5月の連休前]にスタート→ファシリテーターの準備なども、さらにできる
- コアグループメンバーが楽しみながら、スキルを身に付けられるようにする。→**ファシリテーションのスキルアップの研修**を受けたい。
- メンバー数は十分か。→人数が多ければ負担を減らせたのでは・・・ →**ファシリテーターは各グループに二人ほしい。**
- コアグループ会合 — 実際に会って話せたら、話が一方通行になりづらいのでは？→**対面の会合を増やす。**
- コアグループメンバーの証明書も検討してはどうか。
- 高校生もコアグループに参加できるかどうか検討する。
- 役割を分科会が企画し分科会以外のメンバーでも分担する。
- **広報：高校生が多かった理由は？**→それが分かったら、広報しやすい。参加者に広報を頼む[先生に誘ってもらった]
- アンケートは何のため？誰のため？ →終わったらすぐにアンケートに回答する意識と習慣を。  
[今後のプログラムの改善のため。自分のため —スキルアップ、キャリアにもプラス]

# 目的の達成度 (2月6日第12回コアグループ会合-参加者9名で協議)

## 【アウトプット1】 第一回講座 平均 3.8

- 参加者は、交流会・講義・ワークショップを通じて、マイクロアグレッション（無意識の差別）についての理解と気づきを深め、「排除」の構造と、すべての人にとっての居場所（ビロンギング）について考えるきっかけを得る。

## 【アウトプット2】 第一回講座 平均 4.0

- 日系ブラジル人コミュニティの歴史・現状・課題を学ぶことで、日本社会の制度的課題との関係性に気づき、「外国人の問題」ではなく自分たちの社会の課題として捉え直す視点が育まれる。

# 目的達成度 2 (2月6日第12回コアグループ会合-参加者9名で協議)

## 【アウトプット3】 第二回講座 平均 3.8

- 参加者は、海外ルーツの人々の生活現場やコミュニティに実際に身を置く体験を通じて、多文化共生の現実と課題をより実感をもって理解する。特に構造的な問題があることに気付く。

## 【アウトプット4】 第三回講座 平均 4.1

- 保見団地訪問を振り返り見聞きした現状を制度的・構造的な課題と関連付けて考察し、多文化社会における「排除」や「孤立」の仕組み、「ビロッキング」を理解する。外国ルーツの人々の問題ではなく、自分たちの問題でもあることに気付くアクションにつなぐ。

## 【アウトプット5】 第三回講座 平均 4.4

- 多文化社会を共に創るための具体的なアイデアを出し合い、「橋渡し役」として自分が地域で果たせる役割を考えるプロセスを通じて、アクションのヒントを得る。



# 共催におけるNGO側とJICA中部側の役割

## NGO側

- 企画
- 運営
  - コアグループ募集・育成
  - 広報（チラシ作成、SNS）
  - 司会
  - グループファシリテーター
  - 講師
  - 評価（コアグループによる参加型評価）

## JICA中部側

- 企画に対する意見
- 運営
  - 前年度参加者へのコアグループ参加呼びかけ
  - チラシ、発送の予算化
  - 広報（後援依頼、チラシ配布-各県デスク、HP掲載、MLなど）
  - 参加申し込み集約
  - 外部講師への謝金予算化
  - 評価（参加者アンケート集計）



中部NGO-JICA中部地域協議会で報告・協議

# JICA 中部との連携の課題

- JICAが看板だけになっていないか。  
運営面のみならず、内容面でJICAの経験と知見も共有。
- JICAのお墨付きを得ることで参加の動機付け。
  - **コアグループメンバー募集において**  
JICAの一言 共催の理由 コアグループメンバーに修了証書
  - **コアグループ活動ーインターンシップの可能性**  
→公民連携の観点から 内容とメリットを明確に。

ありがとうございました。

